

令和4年度 第3回みどり市総合計画審議会 議事要旨

○日 時 令和5年1月23日(月) 午前10時00分から午前11時30分まで
 ○場 所 みどり市役所笠懸庁舎2階 第2会議室
 ○出席者 24名(審議会委員19名、みどり市5名)

【審議会】 出席：19名 欠席：6名

〈会 長〉	山科 章	委員			
〈副会長〉	鈴木 義雄	委員			
〈委 員〉	森田 哲夫	委員		曲澤 節	委員
	中澤 秀夫	委員		小倉 秀明	委員
	松原 まさ江	委員		小屋 雅義	委員
	石田 義彦	委員		大澤 孝志	委員
	森田 峯治	委員		木村 茂光	委員
	田村 幸男	委員		石埜 茂	委員
	新井 巖雄	委員		松嶋 一郎	委員
	伊藤 正雄	委員		村上 利朗	委員
	小林 美枝	委員			

(欠席)	遠藤 剛	委員	新井 利明	委員
	東郷 望	委員	山内 亜希子	委員
	深代 勉	委員	木村 光一	委員

【みどり市】 5名

副市長	塚越 昭一
総務部長	齋藤 典之

<事務局>

総務部企画課長	小池 俊輔
総務部企画課長補佐	佐藤 学
総務部企画課政策調整係長	小倉 敦史

○会議内容

1 開会

2 挨拶

- ・山科会長より挨拶

3 議事

- (1) 前回審議会(R4.11.7)での意見と対応について 【資料1】

- (2) パブリックコメントの意見と対応について 【資料2】

【資料3】

計画案を市長へ答申することについて諮問

⇒ <承認> ※出席委員 過半数以上挙手

- (3) 今後の予定について 【資料4】

- (4) 総合計画の進捗管理/検証方法について 【資料5】・

4 閉会

○総合計画の計画内容に対する意見

◆公共施設管理計画の説明については、住民意見を反映する旨の表記をしてほしい。

- ・公共施設管理計画については、住民の意見を反映しながら見直しをすることになっていると思う。
- ・計画内においては、住民としっかり協議して公共施設管理計画を見直すという内容に表現を変えて欲しい。

<事務局から回答>

⇒公共施設管理計画について、今後、見直しを行う場合には、改めて市民の意見を伺いながら進めていきたいと思っている。そのため、計画内にも「市民や利用者の意見を踏まえる」といった内容を記載する。

◆審議会の運営においては、委員の皆さんから意見が出しやすい進捗を望む。

- ・審議会は、あくまでも審議委員の間で審議を行うものである。進行方法も含めて、時間内でスムーズに委員の皆さんから意見が出るような場になると良いと思う。

◆総合計画の意義を捉え、しっかりと進捗管理と検証を行ってほしい。

- ・次年度以降、総合計画の検証を進めることとなるが、ワーキンググループをつくるなど、各委員がしっかり議論しながら進める必要がある。
- ・時間をかけて作成した総合計画は、市民の財産でもあるということを念頭において、しっかり取り組んで欲しい。

◆計画の内容について、より分かりやすいものとなるように、再確認と修正をしてほしい。

- ・計画の内容について、挿絵とタイトルの整合性の再確認や、SDGs のロゴに記載されている文字の鮮明さを改善するなど、より分かりやすい計画となるように、修正を検討していただきたい。

◆現在進めている温泉施設整備について、計画の中での位置づけを確認したい。

- ・温泉施設整備が進められているが、計画の中での位置付けはどうなっているのか。

<事務局から回答>

- ・温泉施設については、施策「地域福祉の充実」で進めることになる。
(総合計画では、28、29 ページ)
- ・みどり市には、様々な福祉施設があるので、基本事業 2 の説明「福祉施設の整備等により」の表現内で、温泉施設も含めた施設整備を位置付けている。

◆計画内容に、審議委員からの意見が反映されている。

- ・審議委員から、事務局に意見として出していた、施策一覧表の「主管課」の記載や、計画への「公共交通・まちの拠点づくり」の追記が反映されていた良かったと思う。

◆今後は、対市民だけでなく、移住者に対しても IT 環境の整備が重要となる。

- ・施策 8-3 に、行政のデジタル化が新たに位置付けられたが、今後は、市民の方や高齢者がどこでもネットが使えるような IT 環境の提供が重要と考える。
- ・ネット環境がないところには人は来ないと思うので、対市民だけでなく、移住者の住環境を整えるという意味でもネット環境の整備は重要。さらには、公共交通のネット決済なども検討して欲しい。

◆行政改革を進めながらも、市民の満足度は確保して欲しい。

- ・行政改革を進め、予算の削減を行っていると思うが、結果として、道路要望に対応ができなくなるなど、市民の満足度低下に繋がらないようにして欲しい。

◆コロナによる環境変化を移住増への機会として捉えてはどうか。

- ・東京に就職をしている方がコロナでリモート勤務になっているような状況を聞く。そのようなときに、子育てのしやすさや、定住のための特典があれば、県内他市の館林市や高崎市への移住を検討している方がみどり市を一つの移住先候補として考えるようになると思う。

◆住みよいまちにするためには、市民参画と拠点整備が必要。

- ・本当に住みよいまちにするためには、行政が行っていることを市民の皆さんが知る。そして、参画することが大事である。
- ・そのためには、各地域に IT 環境が整備されたしっかりとした拠点を作る必要がある。

- ・みどり市は、住民にとってやさしく、かつ、住民と行政が一緒になってまちづくりをしているというイメージが出来るような政策提案をしてもらいたい。

◆観光協会の法人化など、みどり市がステップアップしていると感じる。

- ・来年度に向けて、みどり市観光協会を法人化として設立するような状況もあり、みどり市がステップアップをしていると感じる。魅力がない町には人はこないと思うので、今後もしろと前に進めていただきたい。

◆外部へアピールするための体制を整備する必要がある。

- ・総合計画の1つの指標として、みどり市のラインともだち数が設定されている。現状では、5200人とあるが、確認してみると、市の提供するコンテンツが更新されていないところがあった。
- ・定期的な更新や、コンテンツの作成をおもしろいと感じる人材が必要であるので、外部へしっかりとアピールできるような体制をぜひつくってほしい。